

ユニバーサルデザイン

3年3組21番 豊岡光太朗

3年2組27番 西村悠

Keyword:「ユニバーサルデザイン」「バリアフリー」

1.はじめに

中学校でユニバーサルデザインについての講習を受けたことがきっかけで興味を持ち、高齢化が進む近代においてユニバーサルデザインが大切になるのではないかと前々から思っていたのでくわしく調べようと考えた。

2.序論

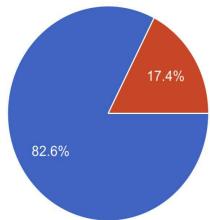
今の日本はバリアフリーに対する認知度と対策が進んでいない、または進めづらい状況下に置かれているのではないだろうか。実際2021年のSDGs国際ランキングで日本は18位に入っているものの、細かいところへの配慮が足りておらず北欧諸国やドイツには及ばない状況である。現在の日本には国内の住宅におけるバリアフリー設置の導入率が56%、ユニバーサルデザインのことを認知している人の割合が59%(第一生命HPより資料を引用)と比較的少ない結果である。身近な場所からでも変えられるのでは無いだろうかと私たちは考えた。

3.本論

第一に考えたのが平城宮跡での外部活動である。しかし、記念物に手を加えることが難しく、実際に観察に行った際にすでに工夫が施されていたため別の活動内容に変更することにした。最終的には身近な学校内での危険な場所、使いづらい場所に関するバリアフリー調査を行うことに変更した。具体的な活動内容は、現状の環境と知名度把握、それらに対する調査である。

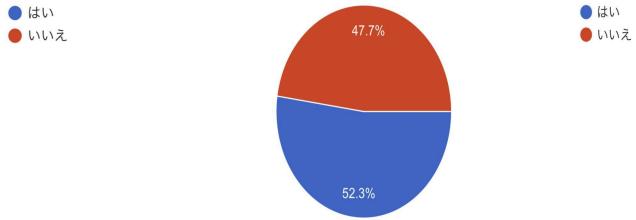
学校内で、不便だなと思う場所はありますか

86 件の回答



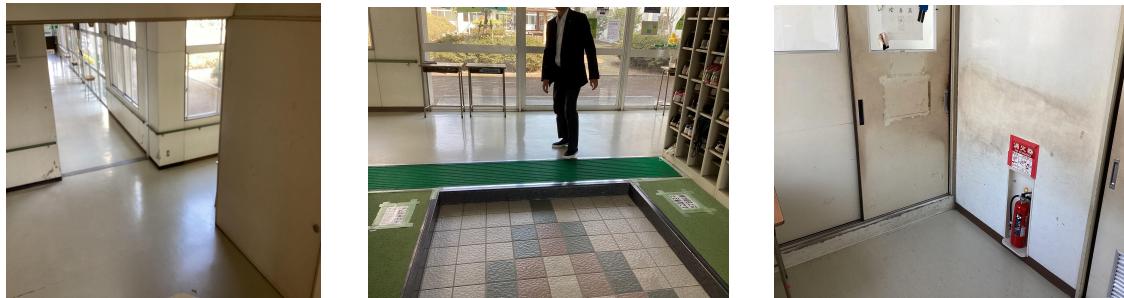
教室内で、気になるところや不便だなと思うところはありますか

86 件の回答



↑現状の環境と知名度把握の調査に関しては、高校3年生全体を対象としたアンケート

調査を学校内で行った。グーグルフォームでのアンケート調査の結果、学校内で不便なところがあると答えた人が全体の82.6%、教室内で不便なところがあると答えた人が全体の52.3%という結果が出た。そこで、それらの結果から生活に不便が生じていると感じている人が多いいると判断し、今度は実際に校内で不便だと思っている場所をアンケートで聞いた。その結果、廊下の曲がり角、階段、校内のちょっとした段差などの細かい点が上がってきた。そこで、自分たちで実際に問題視されている場所に行って詳しく調べてみた。その結果写真のような場所が挙げられた。



道路の交差点や、車道と歩道の間のちょっとした段差などのこれらと似たような場所が街中にもたくさんあることも同時に分かった。

自分たちは、実際に知名度と普及率の割合がよく似ていることから、日本のバリアフリーの普及率と知名度が比率しているという考えに至った。そこで、日本でのユニバーサルデザインの知名度を上げるには同時にバリアフリーな場所を増やす必要があると感じた。感じたことを全て解決できたわけではないので、今後も探求できる機会があれば調べていこうと思う。

4.結論

今回の探究で私たちの学校の中には目立たないが生活に影響を与える不便な場所や危険な場所が多く存在していることがわかり、アンケート結果で生徒の8割が校内で不便さを実感していて、曲がり角や階段や段差などが挙げられた。これらは普段見落とされがちなものが、怪我や事故に繋がる可能性があり改善する必要があり、さらにユニバーサルデザインという言葉を知っている生徒は6割にとどまり、意識面での問題も明らかになった。今後は生徒や教員が協力して改善できる取り組みが学校全体でユニバーサルデザインに対しての意識向上のために情報共有や学習機会を増やすことで、誰にとっても使いやすい環境を実現できると考えた。身近なところから変えることによって大きな変化につながるというユニバーサルデザインは今後の社会でとても重要である。

5.おわりに

今回の探究で、身近な環境の不便さに気づくことが出来た。学校内の段差や曲がり角、階段など、普通に生活していて意識しない場所の安全や快適さに大きく影響することを実感し、自分の観察力や探究力が高まったと感じた。アンケート調査をしてユニバーサルデザインの認知度がまだ低いということを知り、知識だけ身につけるのではなく実際に行動を起こすことによって改善をすることの大切さを学べた。この探究を通して日常生活の中で誰にとっても過ごしやすい環境を意識して行動しようと考えるようになった。高校だけではなく大学生や社会に出ても身近な不便な場所を見つけたら改善しようとしたり、今回の探求のように情報を共有することによって、小さな変化を起こすことができると思った。探究で培った観察力などは他のことにも活かして、他人のことにも配慮できるような人になろうと思った。今後もユニバーサルデザインを広める活動をして誰もが行きやすい社会づくりに貢献していきたい。

6.参考文献・出典

水野映子「バリアフリー・ユニバーサルデザインは進んだのか」～「誰でもいつでもどこでも」暮らしやすい社会を～
<https://www.dlri.co.jp/report/ld/193892.html>

内閣府「令和2年度バリアフリー、ユニバーサルデザインに関する意識調査報告書」

https://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/tyosa_kenkyu/r02/index.html